

がん検診の利益・不利益（メリット・デメリット）について

生活習慣病予防健診では、国が推奨するがん検診の項目を実施しています。がん検診による最大の利益は、早期発見によりがん死亡率を減少することですが、がん検診には利益（メリット）だけでなく、重大な不利益（デメリット）もあります。

○ がん検診の利益

がん検診の最大のメリットは、対象となるがんの死亡率が減ることです。

○ がん検診の不利益

がん検診のデメリットとして、がんが 100%見つかるわけではないことや、不要な検査や治療を招くことがあることなどがあります。また、検査に伴い偶発症を起こすものがあります。

（胃がん検診の偶発症の例）

胃 X 線検査において、バリウムの気管への誤嚥、腸閉塞、バリウム製剤や下剤による過敏症、バリウム腹膜炎による穿孔などがあります。また、胃内視鏡検査において、内視鏡挿入による咽頭・上部消化器への機械的な損傷、心・血管系への負荷、局所麻酔薬によるショック、鎮痙剤・鎮静剤による過敏症、鎮静剤による呼吸抑制などがあります。

その他、がん検診の不利益（デメリット）については、厚生労働省 HP に掲載されている検査方法や不利益に関する説明をご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>